

議 事 概 要 書

会議名称	令和3年度 第4回社会教育委員会議（定例会）
日 時	令和3年3月22日（火） 会議：午後1時30分～午後3時00分
場 所	会議：伊那市役所 501会議室
出席者	伊那市社会教育委員：8名（欠席：2名） 事務局：教育長、教育次長、生涯学習課長、係長、担当
議 題	下記のとおり
議 事 内 容	
1	開会（教育次長）
2	あいさつ 教育長：4回目となりました、会議にご出席いただきありがとうございます。私は毎年、このぐ らいの時期になると、コヒガン桜の木々が気になっており、本日の重そうな雪も、枝にと ってはかなり負担があるのかなと、そのようなことを思う。また、新型コロナウイルス感 染症も落ち着いてくれればよいが、落ち着くかと思うと、また、感染される方が相当な人 数になり、そのようなことを繰り返している。気持ちが緩くならないようにしなくては いけないと思う。 学校のことになるが、月初めの朝礼で教育委員会のスタッフに話す機会があり、そこ でも話したことであるが、西郷隆盛の言葉として知られている、「雪に耐えて梅花、麗し （うるわし）」という文言があるが、これと同じく、コロナ禍に耐えて、子ども達が本当 に尊いと、そういうことを思っている。学校、公民館、文化施設もそうだが、私たちが皆 さんの学びを守ると思っているわけであるが、実は、子ども達が、互いに精一杯の感染予 防をして、学校が守られている、そのように思っている。実際にはこの一年間、公民館、 文化施設でも、それぞれが、企画・計画をした講座等が、大きな制約を受けるそのよう な一年間であった。3月議会が先週末で終わったが、その冒頭で、来年度の所信を述べる機 会があった。そのほんの一部であるが、「コロナ禍において、私たちは、児童・生徒の学 びを止めないことを大事に、ICTの活用を日常化し、児童・生徒一人一人に貸与している タブレットを活用したオンライン指導等に取り組んできた。この「学びを止めない」こと に加え、急な休業や学級閉鎖などがあっても、給食を止めないことを、大事にしていく。」、 このようなことを述べさせていただいた。学校も公民館も文化施設も担っている大切な 働きは「学びの保障」である。このことは、一人一人が願っている幸せ、福祉と深いところ で繋がっていると思っている。毎回述べていることだが、社会教育委員の皆さんは、ご 自分で出かけられて、足を運ばれて、お考えになられたこと、お感じになったことを、ご 自分の言葉で報告してくださっており、たいへんありがたいことだと思う。今日で、任期 を迎えられる委員の方もいると聞いている。まとめという意味でも、本日の委員会、よろ しくお願ひしたい。

会長：本年度最後となります、第4回社会教育委員会議に、足元の悪い中、ご出席を賜り誠にありがとうございます。

この冬は、例年になく大変寒さの厳しい冬で、春の訪れを待ち遠しいと思っていたところである。3月に入り、春の訪れを感じる気候となり、今日の雪は、「えっ」と思ったが、間違いなく春の足音は一步一步近づいており、間もなく桜の開花の便りも届くことと思われる。私たちは、一昨年以来、新型コロナウイルス感染症に翻弄されてきたが、ここに来て、大変感染力の高いオミクロン株の感染拡大を受け、県内には1月27日より今月6日まで蔓延防止等重点措置が適用され、様々な分野に活動の自粛が求められ、市内の施設の閉館や、一部休館等、生涯学習活動にも様々な影響が及ぼされたところである。このような中、7日以降、適用が解除され、学びの場の確保が出来、人々が交流できることは、大変うれしく感じている。先月には、北京オリンピック、またパラリンピックでアスリートの皆様から、様々な感動をいただいた。また、つい先日、晴天のなか開催された春の高校伊那駅伝を通じて、高校生ランナーの力走を拝見できたことも嬉しいことであった。私たち社会教育委員の任期も、今月末で2年任期が終わり、コロナの影響により、委員全員参加での研修の機会が持てなかったことは、残念ではあるが、一日も早い終息を心より願うところである。本日、第2次伊那市生涯学習基本構想の進行管理について、ご審議をいただくところである。よろしく願いたい。

3 会議事項（進行：会長）

(1) 令和3年度生涯学習基本構想の進行管理について

（資料に沿って係長から説明、課長から補足説明）

<質疑・意見等>

委員：感想になるが、管理シートを一通り見させていただき、いろんな事業についてコロナ禍であるにもかかわらず、何か出来ないかと非常に努力した姿が各所に見られ、なんとかして事業を動かしていこうとしている。普通にやれば簡単にできることだが、もう一歩踏み込んで考えながら行っているということは、非常に素晴らしいと感じた。

もう一つは、いろいろな計画をして実施出来た事業がたくさんあるわけだが、例えば目標値を設定して推進したが、その目標値に達していないものもあれば、目標値を超えてしまったものもある。はるかに超えたものもある。たとえば、みはらしファームに関しては、工事により売り上げが縮小されており、いろいろな制約を受けているにもかかわらず、目標値よりかなり上をいっている。その増えているのは、何か理由があると思うが、そういう理由もしっかり分析して次の活動に繋げていただけるとありがたい。実施して良かったばかりではなく、良いところは、どういうところであったかということと、良くなかったところは、どういうところが良くなかったのか、中身を考えていただけると、来年度の事業がさらにうまくいくのではないかと。

係長：いただいたご意見を、担当部署と詰めていき、そのような部分についてしっかり検討していきたい。

委員：良かったところと、悪かったところについて、問題点が多くあり、全部は言い切れないが、良かったところは、子育て支援センターの関係と、人権の講座開催で、出来上がったが、その中でどうしたら人権の啓発が出来るか考えたことは、大変よいことである。新聞の記事にも載っていたが、シトラスリボンプロジェクトの件で、皆さんも身に着けていたところだが、人権という部分の中で、この発想にもっていったこの担当部署に敬意を表したい。もう一つ、誰もが暮らしやすい社会の実現の中、環境保全への理解と実践活動の促進のところ、事業計画を立て、その結果の内容が、子どものエコツアー、スターウォッチング、生ごみ処理容器等導入など、これをしていただいたこと自体が、今、デジタル消費につながる大事なことである。地球温暖化、カーボンニュートラルという時代の中で、非常に大事なことをやっていただいたと、評価をさせていただきたい。

悪かったところについて、P 78で事業計画の高齢者知恵袋事業の実績で、評価がBとある。それと次に、P 81でここにも、同じように、高齢者の知恵袋事業と、文言はほとんど同じである。こちらは評価がAとしている。同じ部署でAという評価とBという評価をしている。これはありえないこと。

次にP 89のところ、介護予防ボランティアポイント事業の実施のところ、令和7年度の達成目標がポイント事業への登録者を450人と最終目標に設定している。令和3年度の事業計画は、介護保険事業所へ行かずに出来る事業所支援のためのボランティア活動の実施となっている。結果として、もろもろ活動を実施したと書いてある。目標が数字で作ってあるが、令和3年度、ポイント事業への登録者は何人だったのか。それによって評価が決まってくるのではないか。計画はよいが、その計画に沿ってやった結果、登録者が、令和3年度で何人か。それがないと、平成7年度の450人に対して、令和3年度から7年度までの間に、どのように登録者が推移していき、結果として450人になったのかが見えない。

もうひとつ、P 118で、「陸上競技場の改修を行う」が今年の事業計画で、これは、当然、予算化されていて、改修を行うことは出来て当然のことである。出来てAではなく、出来てCである。Cというのは5段階評価の中で真ん中である。出来てふつうである。それが、計画どおり改修する中で、これを、それ以上に、ソフトの面で出来たなど、先ほどのコロナ禍の中で、努力したことと同じようにすれば、Aという評価が出てくる。予算があり事業が達成できた、それは、5段階評価でいえばCではないかと思う。

係長：ご指摘の部分について、もっともなご意見をいただいた。5月に、次回の目標設定、進行管理に向け、各委員が集まる機会を設ける。その際、内容については、変更も含め検討をしていくところである。今回のご意見を共有し、分かりやすい、しっかりとした目標設定をさせていただく。

委員：みはらしファームの参加者が、計画より、多くなった点について、先ほどのご意見と一緒に、その良かったという結果を、不問題と思うのではなく、展開していただきたい。

それから、P 10のデジタルアーカイブの件で、現状が27万枚で、目標が27万5千枚、今年5千枚増やすという予定のものが、271,284枚ということは、実際、1,284枚しか増えていない。98.65%で評価がAというのはおかしい。この評価か

らいくと、何もしなくても、令和7年度目標の29万5千枚に対し、現状の27万枚であつても、90%を超える評価になってしまう。評価の仕方を見直ししていただきたい。

それから、井月の俳句や伊澤修二音楽祭のイベント等が行われているが、このような行事については、一過性のものでせず、常態化していただきたい。例えば、俳句の方で言えば、出来ればだが、放送の中で、ちょっとその時にあつた俳句を、少し入れていただくなど。それから、なつかし館には、昔、小学校で使われていたオルガンが調律されて、使える状態になっていると聞いた。それであれば、伊澤修二の監修した唱歌などを誰かに演奏してもらい、それを録音し、出来れば館内に流していただく、また、たまには、市の放送の中に入れていただく。そういう形で、一過性にとらわれない活動になればと思う。全体的には、制約の多い中で、いろいろ工夫されてやっていただいているなという印象を受けた。

委員：感想だが、コロナ禍で、工夫され、努力してやっている感じを受けた。評価について、難しいかもしれないが、木工教室は出来なかったということでE評価であつた。まさに結果である。ところが、ある部署では、パンフレットの配布や、周知をしたことでDなど、過程を重んじている。部署によって、事業の違いあると思うが。これから5年間、評価するわけであるので、過程と結果が一緒であれば一番良いが、コロナ禍や災害があつた時など、いろいろある中で、過程を重視するのか、一生懸命努力をしたが、やはり結果は結果でやるのか、どちらにしろとも言えないが、そのようなところを考え評価をしていただきたい。

委員：評価の仕方が係によって、まちまちである。それと、評価にこだわってしまうとせっかくのいい目標が、下がってきてしまうのではないかと危ぶまれるので、評価のA B C D Eよりも、何か新しい工夫とか、試みが生まれてくことの方がいいのではないと思う。

(2) 社会教育委員関連事業について（令和3年度報告）

（令和3年度行った事業について係長から説明）

(3) 令和3年度社会教育委員の実践活動について

- ・イベント等参加報告、地域の話題（各委員から報告）
 - ・山と谷のアトリエ
 - ・第3回南アルプス講座 高山帯×動植物 伊那谷の極地、南アルプスの自然
 - ・い～な音楽祭2021

(4) その他

- ・社会教育委員活動任期を振り返って（各委員から）

委員：かなり遡るが、私の恩師である校長先生が、これからは生涯学習の時代だぞと、20年も前に言われた。生涯学習の時代…。自分は学校教育をやって、授業が一番だ、しっかりした授業をやりなさいと言われると思ったら、もう生涯学習の時代であると言われ、意味が全然分からなかった。そんな自分が社会教育委員を受けたら、幅が広く、奥が深い。さらに市に提言しなくてはいけない。言われたことをようやく噛みしめている。お役に立てたかは分からな

いが、非常に自分の研修にはなっている。それを、市民の皆さんに還元していけたらと、それが私なりの大きな課題である。そして、社会教育委員としての立ち位置を何度も問いかけし、この会に出席している。

委員：この2年間は、その前の2年間と全く違い、中止、また中止という感じであった。宇宙の学校、地球の学校、おいで塾であるとか、新型コロナウイルスに負けないため、いろいろ工夫されていた。いろいろなところで、子ども達と接するのが大好きで、本当に子どもたちが楽しそうに行っているのを見て良かったが、本当はもっと多くの事を、子どもと一緒にやりたかったという2年間であった。早く新型コロナウイルスが収まってくれば良い。私の一番の気持ちは、とにかく子供たち、地域の人たちと接することが楽しかった。

委員：本当に地域の皆さんとのふれあいが、うれしいというか、喜びである2年間であったと思う。そういう活動が制約されてしまったので、余計に、人と人との交流が素晴らしいと思いきらされた気がする。微力ではあるが、また、地域のお手伝いが出来ればと思っている。自分自身もいろいろ勉強させていただきありがたかった。

委員：昔、社会教育主事という免許があり、これを取った記憶がある。だから、社会教育とはどんなことをするかは、だいたい分かっていたが、いざ自分でやってみると、何をやっていいのか全然分からない。とにかく地域の方々と、公民館活動や、学校の活動と一緒に動けたらいいと思い、一年間、動いてきた。大変勉強になったことは、コロナ禍で、公民館の方々や、教育委員会の方々、どうすればいいか、努力している姿に感動した。地域でいろいろ関わる中で、中止になると、必ず公民館主事から、このようにしますという細かい連絡が来て、その細かい連絡が変わると、また、細やかに連絡をいただいた。大変ありがたかった。そのような時の対応を、どのようにしたらよいかといつも考えている。公民館主事の方や、市役所全体だと、もっと広範囲の人が考えていると思うと頭が下がる思いである。今期で辞めさせていただくが、大変勉強になった。今後も、今までと同じように、地域でいろいろ子どもたちと触れ合い、毎朝、子どもとあいさつを交わし、青少年サポーターというものもやっているの、それで、楽しみを続けさせていただきたい。

委員：この2年間は、第1次の基本構想の最終年度と、新しい2次の初年度であり、また、新型コロナウイルスとの闘いの2年間、そんな2年間であった。そんな2年間で感じたことは、対面で話をする、コミュニケーションをとる、これがどれほど大事な事なのかということ。あれが中止、これが中止、人と会うことの中止、その中で顔と顔を合わせて、相手の表情を見ながら、会話が出来、話が出来る、コミュニケーションがとれる、これは本当に幸せであると感じる、そのような2年間であった。また、それと同時に新しい生活様式が生まれてきている。逆に、そちらの方の視点をもっと大きく見なければいけない。それに合わせた社会教育の大切さ、今後その方向を見据えながら、物事を進めていかなければと感じた。

委員：2年間、いろいろと役にたつことが出来たか考える。このような役をいただいていたら、漫然と過ごしていたかもしれない。イベントや講座へ出かけたときに、これはどうなのか、こういうことは良い、こうなったらもっと良い等、そのような思いをもってそれぞれの会議に参加させてもらった。このような機会をいただいたことに、感謝したい。制約が多い中でも、それぞれのところで、一所懸命工夫をされ講座などを行い、日曜日に講座を開

催していただくことは、教育委員会及び関係者の皆様、大変であったと思う。そのような取り組みにより、いろいろな方々が、生涯学習できるように取り組んでいただいているのだと感じさせていただいた。

委員：私も皆様と同様に、この2年間、対面して話をする事の大切さをつくづく感じさせられた。個人的に私は、アナログ人間であるので、デジタル社会についていけないところがあるが、子ども達が、タブレットを自由に、操作しているのを見ると、そうは言われていられないと感じる。これから、そういう社会へも、少しずつ適応できるように学んでいかななくてはならないと感じる。

委員：この2年間、コロナ禍の中で、地域の生涯学習活動も、ままならなかったわけだが、今年は、夏休みのおいで塾が公民館で開催され、その手伝いが出来たこと。また、卒業式翌日、一日ではあったが、ミニおいで塾が行え、その手伝いが出来、皆さんと交流できたことは、私にとっても喜びであった。一日も早く、この新型コロナウイルスが収束し、また皆さんとご一緒に活動が出来、いろいろな場所で、お話が出来る機会をもてたらよいと思っている。

4 その他

委員：誰が担当すればいいのかわからないことがある。世の中で、引きこもりしている子どもが新聞沙汰になっている。伊那市ではどういった実態があるか、全然分からない。もし、いた場合に、誰がそのことを考えていかないといけないのか。どこが担当になるのか分からない。おそらく教育委員会で考えなくてはいけないのだろうと思うが、考えていただけるとありがたい。

次長：引きこもり、子どもの不登校であるとか、そのようなことにも関わってくる。今、行政の中でも、それぞれ担当する部署というのはなかなか難しい問題である。実態が正確に把握出来ていないところもある。保健福祉の部門の担当や、教育委員会だと学校の方もそうであるし、子ども相談室という部署もあり、それぞれに引きこもり等、ケースケースで対応している状況である。国の方でも、そのようなことを課題にして、制度も出てきている。市役所の中でも、その辺をはっきりし、また、市民の皆様にもお力をお貸しいただくことも出てくると思うので、ご協力をお願いしたい。

委員：学童クラブの先生が足りないのではと思う。学童の先生が、学童の先生を探しているということで、気の毒であると思う。学童の先生を探すため、募集をかけるとか、何かしてあげられると、先生たちも楽になるのではないか。

課長：先生たちに、知っている人の紹介、勧誘をお願いしていることはある。同時に、事務局でハローワークであるとか、保育士をやめられた方をあたっている。今後も、市報、有線放送、ケーブルテレビ等、いろいろなところで募集をかけていきたい。

・次回の新委員による会議予定について（第1回社会教育委員会議 4月22日（金））

5 閉会（副会長）